

# 創造の源泉 新発見の資料

4

## 『学生時代のスケッチ』

飯田市美術博物館で、

現在開催中の特別展「創造の源泉―菱田春草のスケッチ―」では、開催に先

立つ調査でいくつかの新発見がありました。展覧会で初公開している資料についてご紹介します。

きます。花や鳥を描いた

これらのスケッチは、春草の熟練した筆使いを感じさせます。

このほど、これらとは違った春草のスケッチ類を確認しました。明治23年から明治25年の日付が書き込まれたスケッチ

の証言によると、春草は1年生の頃はそうでもなかったが2年になる頃か

らめきめきと画の腕前を上げて目立っていったといひます。展覧会場で、この時期のスケッチを描いた順に並べて展示していますが、よくよく観察しながら見ていくと、春草の画力が進歩し

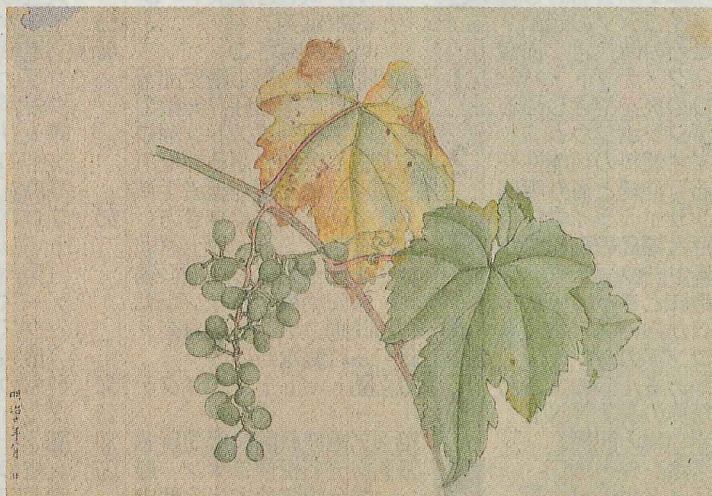
ていくのがわかります。最初は、硬い感じだった筆線が柔らかかみを帯び、色彩のグラデーションがよりリアルになっていきます。

らんで、身近な動植物を観察し、つかみ取ること、を若い時に真摯に学習していたことがうかがえます。花鳥をよく知り描けるようになることは、春草に限らず日本画の画家にとって大切なことでし

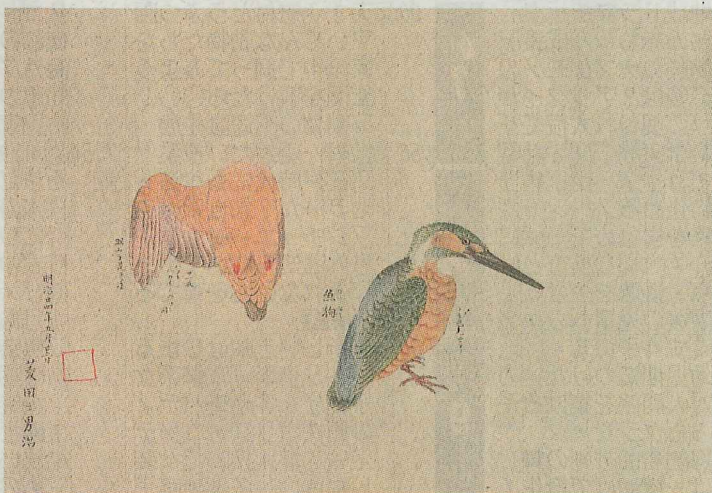
た。春草はこの基礎的な訓練を通して、観察眼を養い、画力を高めていったことがはっきりと読み取れます。  
(榎村洋介・飯田市美術博物館学芸員)

菱田春草のスケッチは、これまで『落葉』や『黒き猫』を描いた頃のスケッチ帳4冊が知られていました。これらは、菱田駿監修『菱田春草素描集』(1989年刊)に収録されていて、本を手

とて眺めることも美術学校時代の同級生



菱田春草「ブドウ(スケッチ)」 明治23年(1890)



菱田春草「カワセミ(スケッチ)」 明治24年(1891)

飯田美術博物館

### 特別展

「創造の源泉―菱田春草のスケッチ」～4月19日

### 展示解説会

4月11日、4月12日 午後2時30分～3時30分

### ギャラリートーク

「《雨中美人》への招待」

4月18日 午後1時30分～2時30分